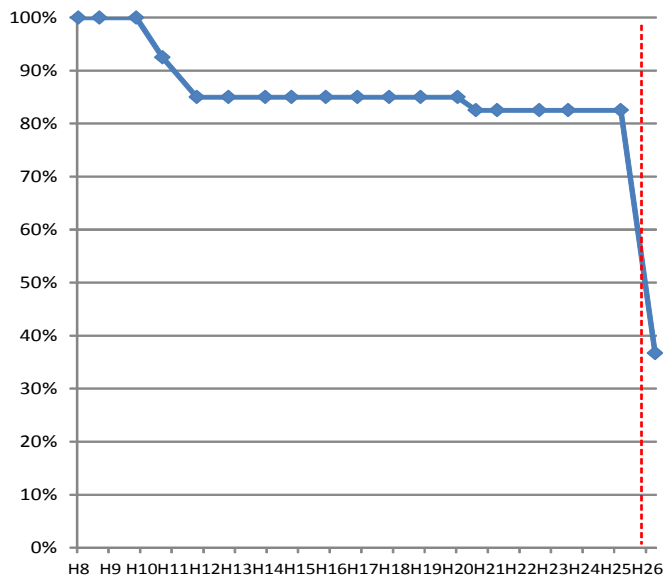


樹種名	カツラ		
科 目	カツラ科		
学 名	<i>Cercidiphyllum japonicum</i>		
分 布	日本各地のほか、国外では朝鮮半島、中国にも分布する。街路樹や公園樹に利用され、アメリカなどでも植栽されている。 日本で自生するものはブナ林域などの冷温帯の溪流などに多く見られる。		
樹木特性	半陰樹であり、山地の渓谷や沢筋に点在して生育する。 樹液を幹が吸い上げる期間では、幹や葉等から甘い芳醇な香りを放つ。		
用 途	材は建築・家具・器具・船舶・楽器・彫刻・鉛筆材に、樹皮は染料、葉は抹香に利用。	  	
植栽本数/面積 (植栽密度)	150 本／0.04ha (約 3,500 本／ha)		
特 徴	【樹 形】 落葉高木であり高さは 30m ほど、樹幹の直径は 2m ほどにもなる。 葉はハート型に似た円形が特徴的で、秋には黄色く紅葉する。樹木に近づくと甘い香りを呈する。 成長すると主幹が折れ、株立ちするものが多い。 日本においては山形県最上郡最上町にある「権現山の大カツラ」が最も太く、地上から約 1.3m の位置での幹周りが 20m 近くにまで成長している。		
試験地での様子	ポット苗を植栽し試験地周辺に自生木は見られないが、現存率、上長成長、通直性等も良好である。植栽から 18 年が経過した現在の平均樹高は 11 m 程度まで成長している。		
被 害	特になし。		

カツラ 現存率



【現存率】

植栽後 2 年を経過した頃に枯死が見られたが、原因は不明である。

林内の照度調整を図るため、平成 17 年、20 年、24 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 36.7%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

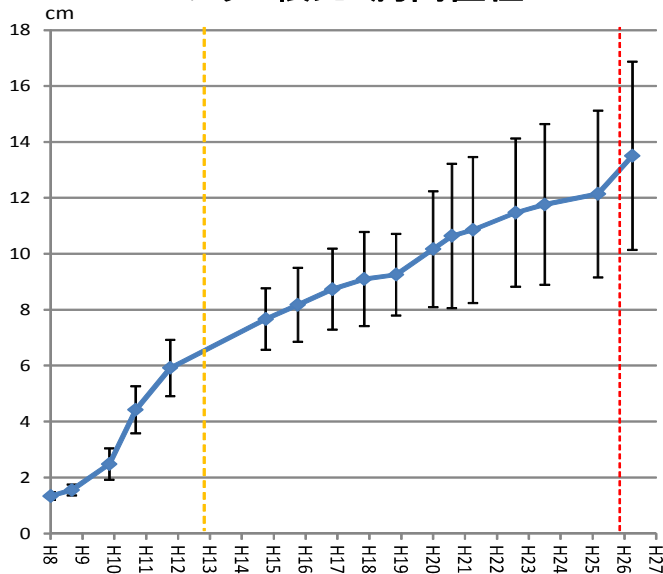
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 13.51 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

カツラ 根元・胸高直径



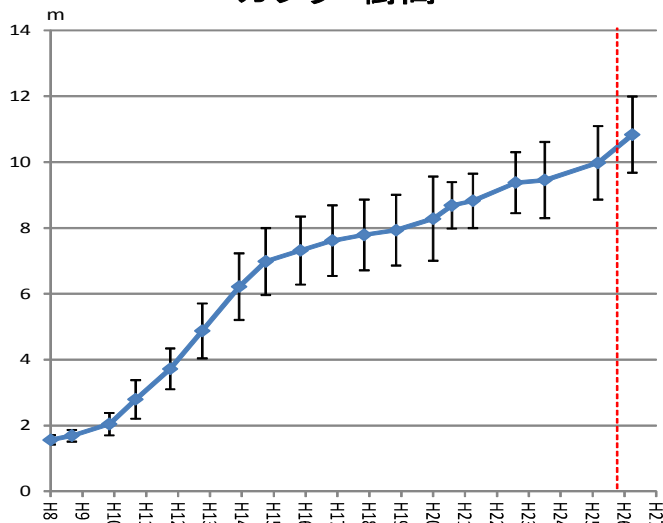
【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 10.83m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

カツラ 樹高



《プチ情報》

中国の伝説では、「桂」は「月の中にあるという高い理想」を表す木であり、「カツラ（桂）を折る」とも用いられる。しかし中国で言う「桂」はモクセイ（木犀）のことであって、日本と韓国では古くからカツラと混同されている（万葉集でも月にいる「かつらをとこ（桂男）」を歌ったものがある）。